

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

早期水稲

1. 生育・水管理

晴れの日は浅水（水深約1cm）で管理し、水温を上昇させ生育促進に努めてください。低温時や強風時は深水で管理し、稲を傷つけないようにしてください。除草剤散布後、水田の水が無くなるまで給水しない止水管理を徹底してください。

2. つけ苗処分によるいもち病の防止

つけ苗はそのままにしておくといもち病の発生源になります。補植が済んだら、早めに処分し、いもち病発生を予防してください。

3. ジャンボタニシ対策

毎年被害が多い水田では、「スクミノン」「ジャンボたにしくん」等を使い、食害を減らすよう努めてください。飼料イネには「スクミンペイト3」を使いましょう。水口・水尻に網（5ミリ目）を張り、水路からの侵入を防ぐのも対策の一つです。

ハウス胡瓜

1. 温度管理について

日照時間が長くなり日差しも強くなっ

てくるので、日中はハウス内の温度を下げ、消耗（蒸散）を減らす管理へ移行させてください。

2. 灌水・施肥について

気温が上昇し蒸散量が増えるので灌水は十分に行ってください。少量多灌水が効果的です。また、通路が濡れている場合は通路灌水も効果的です。地温が上昇し、残肥が効いてくる状態であるため、有機肥料中心の薄めの施肥を行ってください。根の活性が低下している場合は、発根剤を施用してください。葉色が薄い場合は、硫マグや葉面マグを施用してください。

3. 病害虫防除について

病害（べと病、うどんこ病）と害虫（スリップス・アブラムシ・コナジラミ）の防除を合わせて行ってください。特にスリップスは、黄化えそ病の媒介となるので徹底防除を行ってください。管内でもスリップスの発生が見えます。早期防除を徹底してください。つる枯れ病の発生も散見されておりますので、定期的な防除、ハウス内環境（空気循環等）の調整をしてください。

スイートコーン

【追肥時期】

○1回目追肥

本葉6〜8枚期 NK7号40kg

○2回目追肥

雄穂抽出始め時期 NK7号20kg

【防除】

アワノメイガ・メイチュウ防除。雄穂、

雌穂抽出時期に、葉身葉鞘に良くかかるようデナボン粒剤5（使用時期21日前）。アブラムシについてはウララDF（使用時期3日前）、モスピラン水溶剤（使用時期前日）等。他 グレーシア乳剤（ヨトウ、メイガ、ハダニ類）、トランスフオームFL（ムギクビレアブラムシ）

ニラ

急な降雨や日照によりハウス内湿度・湿度が高くなってくる時期です。こまめな換気を行い、高温・多湿条件下にならないよう注意してください。また、病害虫も活発に動いております。卵期間は5〜10日。その後、幼虫期間が約9日といわれております。こまめに防除を行ない密度を上げないようにしてください。

ミニトマト

今後、気温の上昇から生育スピードが早くなる事が予想されます。追肥の量についても、極端に増やすと果実の生理障害に繋がりますので、今以上こまめな施肥が必要です。管理遅れのないよう十分注意してください。また、コナジラミの飛散も見られ始めますので農薬散布による防除も徹底してください。

イチゴ

曇雨天、気温の上昇に伴い灰色カビの発生が懸念されます。天気予報を確認しながら早めの防除を心がけ、ハウス内の温度・湿度の上がりすぎに注意してください。また、樹勢を見ながら摘花や摘葉・枝の整理を行うと共に、葉面散布などを

活用して樹勢維持に努めてください。春先からスリップス・コナジラミが増えてきます。早めの防除の徹底を行ってください。

ぶどう

芽かき作業も最終段階です。新梢の伸長が最も旺盛な時期であり、芽かきをはじめとする一連の新梢管理は出来るだけ早く終了するように心掛けてください。また、誘引は葉面への受光が均一になるよう丁寧に行うこととしますが、品種・時間帯（特に朝方）によっては折れやすいため注意してください。

【防除】4月

○病害：晩腐病、黒とう病、べと病、褐斑病 ○害虫：ユガネムシ類成虫、アザミウマ類

きんかん

【剪定】

剪定前には、樹勢回復のために灌水をたっぷり行ってください。樹形は主枝2〜3本程度の開心自然形を目標に整枝剪定を行ってください。剪定は、間引き剪定と誘引により樹形を作るようにするとよいです。（枯れ枝は全部除去してください。黒点病対策）剪定終了後には、ハーベストオイル100倍に尿素500倍を混用して散布してください。

※剪定は、4月上旬までに終わらせてください。4月中旬頃が発芽期のため、蒸し込みを行い発芽を揃えてください。